

ラクトヒロックス® Q&A

Q. 開封後の保存方法と使用期限は？

A. 口をきつく縛り冷暗所
(出来れば冷蔵庫)にて保
存し、製造年月日より1年
以内にお使い下さい。

Q. 使用時期を教えてください。何も作っていない冬に、春からの畑の準備の土作りのために使った方がよいですか？

A. ラクトヒロックス®は有機物を分解して土壌改良の手助けをする資材です。土壌改良は一朝一夕にはできませんので、早い時期に始めて下さい。ただ、冬の寒さの厳しい時期は微生物の活動も鈍ります。すこし温かく(15℃前後～)なつてからが良いです。使用の目安としては、定植の2週間～1ヶ月前と収穫後の残渣すきこみ時です。

Q. ラクトヒロックス®を施用してから定植・播種までの期間はどれくらいあけると良いですか？

A. 通常は2週間程度
で定植可能です。木
粉、木皮などを使用さ
れた場合は1ヶ月以上
かかります。

Q. 作物によって使い方は変わりますか？

A. 土壌改良資材で
すので、作物によつ
て使用方法が変わる
ことはありません。

Q. 家庭菜園で規模が小さいのですが、5坪あたりどれくらい使うといいのでしょうか？

A. プロ農家では、10a(300坪)1袋
(1300g)お使い頂いております。初
めてのご使用や障害が発生した
土壌には多めに使うと良いです。
5坪に換算すると20gとなります
が、使いすぎの害はありません。
分解が早まります。米ヌカ(5~10
kg)に増量してお使い下さい。

Q. 気をつけること、こうすればもっと効果的ということはありませんか？

A. ラクトヒロックス®は有機物と一
緒にお使いいただかなければ効
果がありません。失われていく地
力を補っていくのが、土作りの基本
であると考えます。酸素がうすい
土中で、貴重な酸素を要求せず、
また悪性のガスを出さずに、未熟
な有機物でも発酵分解して、次の
作物の栄養に転化するのので、作業
が省力化できます。

その他、食物残渣の発酵
やボカシ肥料、液体肥料
の作成にも使用できま
す。全ての材料に米ヌカ
に混合したラクトヒロッ
クス®を添加するだけです。

Q. 連作障害に効果があるそうですが、例えば同じ作物を続けて栽培できるのですか？

A. 連作障害とは人で言う偏食のようなものです。ラクトヒロックス®で有機物を土中で分解し、作と作の間に異なった良環境を作ることで、連作障害になりにくい効果があります。

Q. 有機質配合肥料との併用(一緒にまく事)は大丈夫でしょうか？

A. まったく問題ありません。有機質肥料をまくだけでは、作物は吸収しません。むしろ微生物が有機物を分解し、アミノ酸、ミネラル、腐植の形成により、土壌の団粒化が促進され地力の増強した土壌改良をしつつ、作物は正しい栄養吸収ができます。

Q. ラクトヒロックス®を散布する時、pH4程度のピートモスを同時に漉き込みたいと思いますが、pH4だと酸度が強すぎますか？

A. 乳酸菌も酵母もpH4で生育します。同時にすき込まれて大丈夫です。

Q. ヒノキのオガクズを利用したいのですが、注意する点を教えてください。

A. 木質系は緑肥や畜糞に比べて分解が遅いので、定植まで30日程度おいてください。チッソ成分が不足していますので、木質100kg当たり、硫安で4kg以上、尿素で2kg以上補ってください。ヒノキは腐りにくい木ですので、この事はさらに考慮されて下さい。

Q. 通常石灰をまいて、その後堆肥、肥料を投入し耕しています。ラクトヒロックス®で堆肥化した物でも石灰との併用は駄目ですか？

A. 堆肥化後であれば問題ありません。ラクトヒロックス®の施用は、石灰施用の2~3日後、石灰チッソ施用の場合はガス抜け後に可能です。有機石灰は併用可能です。

Q. 落ち葉を使う場合、ラクトヒロックス®を振り掛け完熟したら土に混ぜる方法で良いですか？それとも畝に落ち葉を敷き詰めラクトヒロックス®を振り掛けて掘り起こす方法でないと駄目でしょうか？今作物が植わっており、畝が空いていません。

A. 作物が植えられているときは、①畝間に敷く。
②株間に埋める。
③畝肩に埋める。
④収穫後に残渣と共にすき込む。のいずれかの方法があります。

Q. 積んだ堆肥は雨が当たると良くないですか？雨除けは必要ですか？

A. 雨が当たるのは良くないので、雨除けをされたほうが良いです。また、堆肥の野積みは禁止されており、地下への流出も防いでください。

Q. ラクトヒロックス®を振りかけたワラなどを畑にすき込むとき、ワラが見えなくなるまで、土をかける方がいいのでしょうか？

A. 土と接触していないと分解が進みにくいので、なるべく土をかけて下さい。

Q. 他の菌資材を使って作った生ごみ堆肥を畑に入れるとき、ラクトヒロックス®を使用しても大丈夫ですか？

A. 大丈夫です。

Q. コンポストに残飯がかなり溜まっています。これに大量に集めた落ち葉を材料にして堆肥を作る場合、材料を積みながらラクトヒロックス®入りのヌカを振りかけますが、土も積みながら行った方が良いでしょうか？

A. 少しの土、残飯、米ヌカに混合したラクトヒロックス®をサンドイッチ状に積み込むのが良いでしょう。

Q. 家庭で出る生ゴミの処理にラクトヒロックス®を使えますか。

A. 生ゴミをよく発酵させるためには一晩程度水切りをし、ポリバケツの下部に穴を空けたものに入れ、米ぬか(乾燥した土でも可)に混合したラクトヒロックス®をかけておいて下さい。

Q. 土壌改良で有機物としてモミガラを利用する場合、畑にモミガラ、その上にラクトヒロックス®をまき、管理機で 50~100mmの深さで鋤き込む方法で良いのでしょうか？

A. 籾殻だけだと窒素分が足りません。籾殻 100kg 当たり硫安なら 2~3kg・尿素なら 1~1.5kg・牛糞なら 80kg 以上・豚糞なら 60kg 以上・鶏糞なら 16kg 以上を加えてすき込んで下さい。生の畜糞でもラクトヒロックス®の菌群が有害菌に先んじて働き、悪性ガスの発生を抑えます。

Q. 水やりの時にラクトヒロックス®水溶液を散布するのは土壌改良に効果ありますか。(枯れ草やワラなどの有機物は菜園にすきこんであります。)

A. 有機物等のすき込み時にラクトヒロックス®を使用していれば特に必要ありませんが、発酵溶液は地力的効果ですので悪い結果にはなりません。チッソ成分が多ければ控えた方が良いでしょう。

Q. 市販の発酵鶏糞と一緒に使って大丈夫ですか？

A. ワラ、モミガラと併用すると良いです。拡げた発酵鶏糞に米ヌカに混合したラクトヒロックス®を散布し、すき込んで下さい。そのとき生ゴミ等を一緒にすき込んで良いでしょう。

Q. 木炭と一緒に使っても大丈夫ですか？

A. 問題無く使うことが出来ますが、木炭は肥料養分にはなりません。多孔質ですので、増量剤として考えて下さい。

Q. 青枯れ病菌には効果がありますか。

A. 青枯れ病菌(シュドモナス)は菌の特徴として、短桿菌で1~3本の鞭毛を持って水の流れによって移動します。発生の条件として13℃以上で発生し、20~38℃で激しく増殖します。又、アルカリに強く酸性に弱い菌です。したがって対策として生に近い有機物(緑肥など)をすき込み、乳酸菌などの優勢増殖にて有機的酸性条件を土中に作り、又、水の流れが横浸透ではなく縦浸透になるように団粒を増やす土づくりをしなくてはなりません。尚、乳酸菌の優先増殖を促すためには、有機物1gに 300 万個以上の乳酸菌を付着させることです。アスパラガスには効果良好です。施用の方法は有機物と併用を守って下さい。